

少年 初戦制す



〔アイスホッケー少年1回戦・青森 長野〕第1ピリオド、長野ゴールに攻め込む本県チーム



延長で長野に辛勝

少年 1回戦
青森 6-5
(延長) 長野

アイスホッケー

第五十九回「活彩はやて国体10th」は二日目の二十九日、八戸市、三沢市、福地村でスピード、アイスホッケー、フィギュアの三競技に熱戦を繰り広げた。ふくちアイスアリーナで行われたアイスホッケー少年の部1回戦は延長戦にもつれ込んだ末、本県が6-5で長野県を下し、準々決勝進出を決めた。

本県は第1ピリオド11分20秒、石鉢(工大)がゴール裏から回り込んでシュートを決め、先制。一度は逆転を許したものの、16分すぎに佐々木(同)のゴールで同点に追いついた。その後、一進一退の攻防が続き延長戦となったが、大久保

(同)が決勝点をあげ、粘る長野県を突き放した。長根公園スケートリンクで行われたスピードスケートでは、成年・少年男子六人が決勝進出を決めた。五百標準決勝では県勢短距離のエース清水亮平(吉田産業)、松尾和明(八商)が、持ち味を生かしたレース展開。千五百標準決勝は、少年男子・下村将嘉(八商)、成年男子・高橋雄哉(日大)、少年男子一万標準選は高橋文博(八商)、柏崎藤太(同)が勝ち上がった。

また、三沢アイスアリーナでは、フィギュア少年男子ショートプログラムなどが行われ、県勢がはつらつと演技を披露。八戸市新井田インドアリンクでは、アイスホッケー成年の本県チームが兵庫県との初戦に臨む。